

## 15 情報公開・説明責任

### 1 . 財政公開

#### 【到達目標】

法令を順守し、組織・財務を含む運営と諸活動の状況について積極的に公開し、社会に対する説明責任を果たす。

透明性の高い運用を心がけ、刻々と変化する社会情勢と社会のニーズを掴んだうえで、社会が本学の状況を正しく理解しうるように要求される情報を即時的に提供できるよう特段の配慮を行なう。

#### 【現状説明】

第1に、年間4回発行している大学機関誌「Tsuda Today」の6月号に当年事業報告があり、その中で当年予算の財務の概要、消費収支計算書、資金収支計算書を掲載している。この「Tsuda Today」は在学生、在学生保護者、卒業生、理事、評議員、大学、新聞社・雑誌社等マスコミ、高大連携を行なっている高等学校に配付している。そして、同内容は、公式ウェブサイトにて公開している。

第2に、詳細な財政状況に関する報告書（資金収支計算書・消費収支計算書・貸借対照表等の財務諸表）は、公式ウェブサイト掲載しており、かつ、閲覧用のものを経理課に備えてある。財政状況の公開に関する方針は、公明正大を旨として積極的な公開に努めることが、学内的に了解されているが、方針を明文化したものはない。ただし、その内容や方法は、外部監査法人の監査によって客観性も保たれている。

問題点としては、これらの財政状況に関する報告書が専門的であり、なかなか関係部門の人間以外には容易に理解し難いものである点である。

#### 【点検・評価】

財政状況については、適切な内容・方法により情報公開され、説明責任が果たされている。また、教員の研究活動については、極力新しい情報を大学の公式ウェブサイトで公開するように努めている。このような方法は、他大学でも一般的であり、社会的要求にも十分応えているといえる。

#### 【改善方策】

財政公開の状況の詳細を公式ウェブサイトに掲載するときに、一般の方々にも読みやすいサマリーやわかりやすい解説文を付けるといった工夫を事務レベルで行なう。

### 2 . 情報公開請求への対応

#### 【到達目標】

大学のステークホルダーや社会一般からの情報公開請求に対し、社会に対する説明責任を果たすし、透明性の高い運用を実現することを目標とする。

## 【現状説明】

これまで、外部からの文書や電話、メールなどの問い合わせに対しては、個人情報等公表できない情報以外は、拒むことなく情報公開を行なってきた。2009年4月からは、大学の公式ウェブサイト問合せ先を設け、お問い合わせ内容別の連絡先（部署名・電話番号・Eメールアドレス）と部署別直通連絡先一覧（電話番号・FAX番号）を公開して、より積極的に情報公開に応じられるよう工夫を行なっている。

## 【点検・評価】（学部・大学院とも共通）

現状分析で述べたように十分な配慮がなされていると言える。

## 【改善方策】

情報公開請求の効率化が図れないか、常に社会の動向や新たな情報ツールの研究を絶やさないようにする。

## 3 . 自己点検・評価結果の発信

## 【到達目標】

点検・評価結果について積極的に公開し、社会に対する説明責任を果たす。

透明性の高い運用を心がけ、刻々と変化する社会情勢と社会のニーズを掴んだうえで、社会が本学の状況を正しく理解しうるように要求される情報を即時的に提供できるよう特段の配慮を行なう。

## 【現状説明】

自己点検評価については、「自己点検評価報告書」、「研究活動報告書」を7年ごとに印刷、製本し、公表をおこなうこととしている。ただし、データの更新は毎年実施しており、いつでも外部への公表は可能な状態に整えている。

現在までの報告書作成等については、以下のとおりである。

1996年3月 「研究活動報告書」作成（1990～1994年度の5年間分）

1997年3月 「自己点検評価報告書」作成

2001年3月 「1999年度 自己点検評価報告書」作成

## 第1部 自己点検評価報告

## 第2部 研究活動報告（1995～1999年度の5年間分）

2004年3月 「大学基準に適合している」との認定を受ける。

2004年3月 「2003年度 自己点検評価報告書」作成

2004年9月 「2003年度 研究活動報告書」作成（1998～2002年度の5年間分）

情報公開請求への対応としては、大学関係者（教職員・学生・父母・卒業生）からの情報請求に対しては、もちろん、広く社会一般からの請求に対して、上記の報告書の提供を行なっている。

点検・評価結果の発信としては、大学の公式ウェブサイトで、外部評価を受けたものを全て公表している。現在は「2003年度 自己点検評価報告書」が公表となっている。毎年行なっている「自己点検報告書」と「基礎データ」、および「研究活動」は公

開していない。

問題点としては、こうした報告書や評価結果が重厚長大であり、なかなか世間一般において親しみやすいものではなく、結果的にもっと手軽に大学を比較できるマスコミ等が編集発行している各種大学ランキング等によって大学を評価・把握をしたがる傾向が強いように見受けられることである。

#### 【点検・評価】

前項の財政公開の状況と同様に点検・評価結果についても適切な内容・方法により情報公開され、説明責任が果たされている。また、教員の研究活動については、極力新しい情報を大学の公式ウェブサイトで公開するように努めている。このような方法は、他大学でも一般的であり、社会的要求にも十分応えていると言える。

#### 【改善方策】

自己点検評価報告書の詳細をホームページに掲載するときに、一般の方々にも読みやすいサマリーや解説文を付けるといった工夫を行なう。